

# 図書館だより

平成 26 年 7 月 3 日 発行 No.95

編集・発行

武蔵野市立図書館

TEL0422-51-5145(中央)

図書館ホームページで蔵書検索、貸出・予約状況確認、延長手続きができます！

URL <http://www.library.musashino.tokyo.jp/>

モバイル版 URL <http://www.library.musashino.tokyo.jp/m/>



## 本の中の武蔵野市 その4

その1-No.71、その2-No.75  
その3-No.89 もあります

武蔵野市を舞台にした本を紹介します。本を通してみるといつもの見慣れた町が一層魅力的に見えるかもしれません。( )は所蔵館です。記載のないものは全館で所蔵しています。

### 『吉祥寺が『いま一番住みたい街』になった理由』 齊藤 徹／著 ぶんしん出版

291.3／サ、M／D1-10

東京の人気都市ランキングで常に上位にランクされる街、吉祥寺。吉祥寺の魅力形成の要因を、歴史的な街の変遷や文化的な側面など、さまざまな観点から分析する。



### 『バーボン・ストリート・ブルース』 高田 渡／著

山と溪谷社 767.8／タ(中央) 筑摩書房 B767.8／タ(中央・吉祥寺)

時代は変わっても変わらない男。世の流行に迎合せず、グラス片手に飄々と歌いつづけて 30 年。いぶし銀のような輝きを放つ、フォークシンガー高田渡の酔いどれ人生半生記。中学2年生のときに三鷹に引っ越し、武蔵野という土地との長い付き合いが始まる。

### 『ピンポンさん』 城島 充／著 講談社 783.6／オ(中央)

世界選手権のタイトルを 12 も獲得し、現役を退いてからも指導者や国際卓球連盟会長として世界各国を飛び回り「ミスター・卓球」あるいは「ピンポン外交官」と呼ばれた荻村伊智朗。その劇的な生涯とそれを支えた「武蔵野卓球場」「おばさん」献身の物語。



### 『金子光晴散歩帖 1972.3—1975.6』 峠 彩三／写真・文 アワ・プランニング D911.5／カ(中央)

ああ凡そ、此グラス類程、繁華な、誘惑的な、移ろひ易い物はない…。20 世紀を浴衣がけの自律に生きた詩人金子光晴の平素な魅力満載。自宅や吉祥寺駅周辺で撮影した写真集。

### 『書店ガール1』 碧野 圭／著 PHP 研究所 B913.6／ア1 『ブックストア・ウォーズ』を改題。

ペガサス書房吉祥寺店の 27 歳の書店員・亜紀は、結婚して幸せいっぱい。仕事でもユニークな企画を次々打ち出している。しかし、40 歳の副店長・理子とは、ことごとく衝突続き。その理子が店長に昇進した直後、半年後に店が閉鎖されることになり…。2・3もあり。

『大切なひと』 石井 睦美／著 SDP Y913.6／イ(中央・プレイス)

「悲しいのはね、不幸せな思い出じゃなくて、幸福な思い出のほうなの」吉祥寺のいつもの喫茶店で、少しだけ聞き取りにくいあの話し方で、遙夏は言った。耳の不自由な少女とストリートミュージシャンの少年の切ない恋。

『見えざる網』 伊兼 源太郎／著 角川書店 913.6／イ

街頭インタビューでインターネット上の希薄な繋がりに異論を呈した今光は、放送直後から危険な目に遭うように。駅の群衆雪崩事故、個人情報漏洩…。得体のしれない悪意にどう立ち向かうか？元アルバイト先の吉祥寺、事件がおこる三鷹駅、武蔵境の少女が事件に巻き込まれ…。

『埴輪の馬』 小沼 丹／著 講談社 913.6／オ(中央)

日常生活を小沼流の余裕で描く透逸作品集。いつも散歩を共にする友人や、文学の師井伏鱒二との交友を巧まざるユーモアのうちに描く。幻の球場など往年の武蔵野市が偲ばれる。

『代筆屋』 辻 仁成／著 海竜社 913.6／ツ (中央・プレイス)

勝負手紙、承りますー。小説家の端くれになったばかりの頃「私」がやっていたのは、手紙の「代筆屋」。吉祥寺駅から井の頭公園へと突き抜ける路地の一角のカフェの上が気軽な私の住処。恋文、遺書、別れた子への想い…。手紙に心が動く、10のハートフルストーリー。



『ぐるぐる七福神』 中島 たい子／著 マガジンハウス 913.6／ナ

恋愛には5年間縁がなく、起業に失敗してから職を転々としている、32歳の船山のぞみ。ひょんなことからめぐり始めた、東京に御座す七福神は、果たしてご利益をもたらしてくれるのか…？恋と人生を思索するプチロード小説。武蔵野吉祥七福神の章があります。

『幸荘物語』 花村 万月／著 角川書店 B913.6／ハ(中央) 『吉祥寺幸荘物語』を改題。

毎日パンの耳を主食とし、たまの贅沢といえば「サトウ」のメンチカツ…。吉祥寺幸荘には、極貧ながらも高い志を持って創作活動に励む若き芸術家たちで溢れている。未来を信じ、明日を生きる青年の群像を描く。

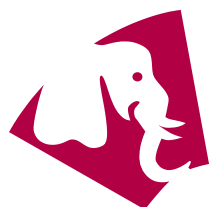
『サマーバケーションEP』 古川 日出男／著

文藝春秋 913.6／フ(中央・プレイス)、角川書店 B913.6／フ(プレイス)

井の頭公園に湧く水をたどりながら、僕たちは海まで歩く。それは、永遠の夏休みの始まりだったー。人と人がつながりあうミラクル。心地よい言葉のヴァイブレーションが世界を輝かせる、おだやかな熱に包まれる再生の物語。



『せかいでいちばん手がかかるゾウ』 井の頭自然文化園／ぶん 北村 直子／え 教育評論社 E／セ／シロ



井の頭自然文化園のメスのアジアゾウ「はな子」は、日本で一番のおばあさんゾウ。普通のえさが食べられないはな子のえさや部屋の温度管理など、飼育員の努力や工夫を紹介する。